

「リニアから自然と生活環境を守る 沿線住民の会」の最近の活動報告

2025年7月12日

リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会

* 土曾川橋梁工事の要対策土活用経緯

- ・ 2022年4月30日：「リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会」設立
- ・ 2022年9月27日：JR東海工事説明会(7日北条・8日座光寺)で中間駅の一部となる土曾川橋梁の工事でケーソン基礎について説明。
- ・ 2022年10月12日：JR東海が「長野県駅新設工事における環境保全」(以下、「保全計画書」)を公表。**ケーソン基礎の中詰め土は現場で発生する残土を使用**すると説明。
- ・ 2024年2月28日：JR東海工事説明会(上郷公民館)で**土曾川橋梁のケーソン基礎の中詰め土に要対策土**を活用すると説明。
- ・ 2024年3月25日：「住民の会」が**飯田市長に対し要対策土を持ち込ませないよう要望書**を提出。
- ・ 2024年3月29日：2027年リニア開業断念発表
(2034年以降開業と！)
- ・ 2024年4月15日：3月25日の要望書に対する飯田市からの回答。



- ・ 2024年4月：要対策土の活用の中止を求める署名活動(書面とオンライン署名)を開始。
- ・ 2024年6月1日：上郷公民館で桂川雅信さんを招き学習会。
- ・ 2024年7月10日：「住民の会」は、JR東海と飯田市に署名約6400筆を添え要対策土の活用中止を求める。
- ・ 2024年7月26日：「住民の会」が県環境影響評価技術委員会の委員長に対して土曾川橋梁工事について、問題点や要望の書簡を送る。
- ・ 2024年8月20日：「住民の会」(7名)が長野県庁で要対策土の活用中止を求める要望書を提出し、室賀リニア整備推進局長、環境部担当者と面談。県庁内で記者会見。
- ・ 2024年8月27日：

予定



- ・ 2024年9月13日：JR東海は「保全計画書」を「更新*」。
(* 現場発生土を中詰めするという部分を消して要対策土を使用すると書き換えている。)
- ・ 2024年9月27日：2024年度第6回長野県環境影響評価技術委員会(以下、「技術委員会」)で「保全計画書」について審議するが**委員の納得を得られず再審議に**。
- ・ 2024年10月17日：予定されていた技術委員会の審議が、JR東海の準備の遅れを理由に延期に。
- ・ 2024年11月6日：「住民の会」が**飯田市のリニア工事に対する姿勢を改めて問う。JR東海に要対策土使用の中止を求める**。
- ・ 2024年11月14日：第7回技術委員会で再審議するが、**委員長は人の住む場所に要対策土を置くべきではないというのは委員の総意と発言、委員会の理解は得られず**。「住民の会」は傍聴。
- ・ 2024年12月16日：「住民の会」は長野県知事に県知事助言について要望書を県庁で担当者に依頼。 県庁内で記者会見。
- ・ 2025年1月27日：長県が土曾川橋梁工事などについて県知事助言をJR東海に送付。

・2025年2月14日：「住民の会」は長野県庁で
事境部に対して助言の送付について
記者会見。

・2025年3月10日：「住民の会」は飯田市に、
海めること、持ち込みを容認するの
市にも重大な責任が生じ
定を結ぶことを

・2025年4月9日：「住民の会」はJR東海に対し
て要対策土の活用の中止を求める**要望書**を

・2025年5月15日：「住民の会」は飯田市に対して**リニア策委員会を求めるとともに、土曾川
橋梁工事の要対策土の活用についてのJR東海との協定について質問と要望を行う。**

・2025年6月6日：飯田市がJR東海と土曾川橋梁工事の要対策土活用について**確認書を交わす。**



・ 2025年6月9日：土曾川橋梁P1ケーソンへ要対策土のは現場で抗議行動。

・ 2025年6月24日：5月15日の要望について飯田市より回答。「住民の会」は川路駅そばにJR youに関連要対策土の仮置き場に関連して飯田市に



今後の取り組み

私たちの「リニア沿線住民の会」は設立から3年余を経過しました。

この間、ＪＲ東海、飯田市長、県知事、県環境部へ要請、抗議活動、及び懇談会を実施して来ました。

山梨リニア実験線、大鹿村、豊丘村の残土置き場、飯田市の工事現場・河川流域、飯田市の水枯れ井戸の現地調査を実施して来ました。

県内の他団体、飯田商工会議所、静岡県、岐阜県の方々とも懇談交流してきました。

これらの活動を通じて感じることは、リニア中央新幹線に伴う工事などで問題があまりにも多過ぎることです。

ＪＲ東海はこれらの問題に対してその場、その場の対応で処置しようとしていることです。

これでは問題が解決しませんし、そのツケが住民に回って来てしまいます。

こうした状況、問題に対して、講演会、学習会、シンポジウムなど企画し、事あるごとに、「住民の会

だより」を発行して住民に伝えて来ました。

「住民の会だより」を配布していると、こんな問題（要対策土搬入のこと）はじめて知りましたと言う方もおられました。

まだまだ多くの方がリニアに関する様々な問題をとらえきれていない状況が浮かびあがってきます。5月月24日に日本科学者会議と共催したシンポジウム「リニアの将来と地域の未来」では140人余の参加者がありました。当会が企画開催した中では最大の参加者となりました。また、このシンポジウムが縁で多くの方が当会に入会して頂きました。

（また、多額のカンパを頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。）

こうした一つ一つの行動を通じて 多くの方々、首長、自治体職員、リニア推進の方など、さまざまな団体、個人の方々と話し合っていきたいと思います。

私たちの会はまだ微力ですが、大きな展望をもって活動して行きたいと思います。

今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。

本日は大勢の方々が参加頂きありがとうございます。